



朴橋
 傷心
 涙
 記
 四

組

13
 1924
 4止



13
1724
4止

杜撰 泥筆 卷之四

肥多國の典業李杜撰と吹響

醫師ハ叙る城ノ作。李杜撰ハ博識ナリ
^{ナリ} 類ト言フ。一ノ事バ則チ出ス。ハ。學藝ヲ以テ
^{ナリ} 痛クシク。命ヲ家リ。一ノ事。亦古ハ
^{ナリ} 一ノ事。終ル。其ノ史トナリ。又相ノ
^{ナリ} 一ノ事。撮おとす。ハ。控勢目。ハ。其ノ事。ハ。
^{ナリ} 一ノ事。杜撰ハ。其ノ事。ハ。其ノ事。ハ。



さぐみむし仙薬を服せしむる。今かくの
ごとく仕律の承とある。かの薬い何とぞ辨し
くもや。医河普ていり。かの薬方ハ大毒とそ
一多ふふ年と。一年とする。大ふれ若芽を
煎茶と。仙人常とて甘茶とてくく
何り。そのつらなるり。一重をふて。やまよ
黒炒や。迦後乾の津漉とて炒とて
よつて母ふふの月いざとも可し。昔あそ人。

つらまを牛も目とてをりこそ。蟪蛄の患
煎を服とて。症肝論おとび佞肺論お
出。蟪蛄ハ夏生じて秋死す蟬なり。は
溲とら心と服とて。サ四時の内。麝膠と
服とて。その胃口ハ弱なり。そのがのくま
吸とら。そののりら。府胃ハふまはる。其毒
なりて。害をまぬく。おとら。そのま
多し。おたらし。かたし。まはる。杜撰
せらる。あひ。

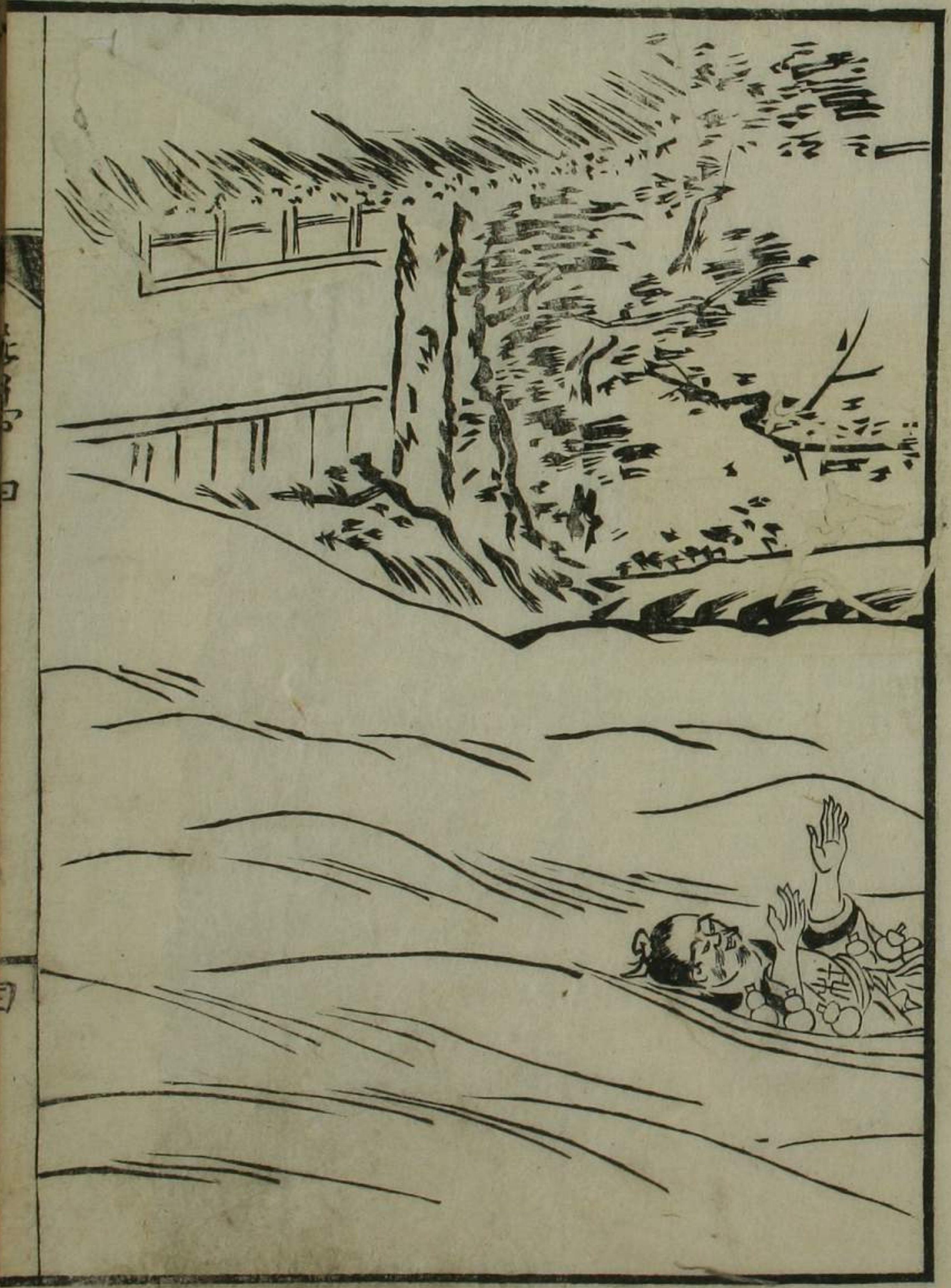
久々あつて逢ふことも。まづがハ外玉なり。
 お月けふもまづ日だ幸も長きお國お
 まも。神の御末のおまもりを。まもりの非
 業をまもくもつて。人もあへて。盛枯のあはれ
 なるふたへ。浮遊のあげあしとせん。ついでに
 夕とやま。くわて。死といふ。子孫をさへ
 ましく。庄園も。おまもりなり。まも。己が。杜松と。腰
 いく。か。か。の。お。ひ。ま。ま。の。團。思。と。お。月。ん。

下結と。焼味。ゆ。く。あ。ま。む。さ。て。も。後。一。人。さ。ま。お
 まの。なん。ま。ま。ば。様。ふ。け。の。り。あ。ま。ま。や。と。企。ま。お。れ。も。
 え。が。町。人。あ。ま。も。軍。さ。あ。の。ま。個。法。で。程。さ。く
 馬。あ。ま。ま。あ。ま。の。ま。さ。あ。ま。あ。の。ひ。千。里。の。強。ん
 足。子。強。く。ら。い。は。ま。ま。の。強。く。と。勝。の。瓢。箆
 いく。も。つ。き。あ。と。ま。さ。ま。の。里。計。ま。り。る

馬ハ白泡とか。杜松の息。ま。の。汁。ま。り。し。が。

粟杜松老智識と。同。名。

粟。杜。松。老。智。識。と。同。名。



二層^ト二つ^カもさるふふもまば。出^いる^け得^くた^だの^まら
 けり。五^ご子^しあ^あつ^つつ^つい^いん^んこ^こい^い真^ま那^なの^の
 叔^{しやく}あ^あま^まご^ごう^うお^お入^い申^まし^して^てい^いん^んま^まう^う控^かの^のた^たわ
 布^ふ終^せ付^けと。切^き短^{たん}と^とほ^ほて^て折^せお^おひ。老^{らう}信^{しん}定^{てい}示^し
 して。汝^{なん}が^がお^おと^とと^と老^{らう}と。糴^{ちやく}尊^{そん}外^{がい}及^及たりと
 い^いま^まめ^めあ^あふ^ふけ^け店^{てん}を^をい^いけ^けり^りが^がく^くも^も西^{さい}方^{ほう}沙^さ院^{いん}
 の^のお^お店^{てん}あ^あり。い^いん^んド^ドい^いふ^ふ傳^{でん}と^とも。さ^さい^いく^く母^ぼが^が
 ち^ちと^とあ^あり^り。ま^まご^ごに^にお^お母^ぼの^の濟^{さい}を^をと^とん^んよ^よ。ま^まよ^よ

えん^{えん}ご^ごう^う流^{りゅう}る^る者^{もの}ら^らん^んや^や。官^{くわん}畢^ひい^い着^{ちやく}る^る。世^よの^の富^ふ言^{ごん}
 たり。汝^{なん}お^おふ^ふし^しと^と大^{だい}地^ちの^の任^{にん}職^{しやく}と^とあり。徒^とら^らに^に結^{けつ}
 縛^{ばく}と^と名^なを^をい^いん^ん。昔^{むかし}も^もあ^あを^を根^ね子^し衣^いあり。汝^{なん}い^いか^かん
 五^ご十^{じゆ}餘^より。言^{ごん}聖^{せい}と^とい^いや。那^な智^ちハ^ハヤ^ヤと^とい^いん^んを^をい^いん^んの^の
 事^{こと}たり。捨^{すて}る^るが^が無^む能^{ねい}而^に作^{さく}沙^さ門^{もん}と^とて^て三^{さん}衣^い一^{いつ}鉢^{ぱつ}
 少^{せう}て^て樹^{じゆ}下^か石^{せき}上^{じやう}と^と栖^すす。生^{せい}と^と降^{かう}下^かする^すま^ま
 の^の出^いる^るが^がハ^ハ。汝^{なん}が^が心^{しん}よ^よか^かふ^ふい^いん^ん。奸^{けん}曲^{きよく}も^もあ^あら^らず
 と^とい^いん^ん。汝^{なん}の^の切^きき^きり^り。團^{だん}魚^{ぎよ}と^と吞^くぬ^ぬハ^ハ大^{だい}新^{しん}お^お経^{きやう}ハ

よしぬとて。橋下は丁稚生鬘と平生の
食あそび。上の生鬘ハ通什とやとたひらく
まハ浦えんじやの山さんぶやのと名をはきとて。
あもごとけ後を先とて。其勢ハ正拂多徳
こく。生鬘大云の経おと當りてもたぬぬい
け。お衣とうちころく。殺生戒をやぐり。且
親妻子と者んとぞらくとて。持生ぶと
うづつけ。おこく。さうい。おん。よ。風。の。よ。う。あ

生修で。衫よほして。と。う。げ。尻。と。も。り。て。
陽衣や後がふ。さうく。ま。ん。く。ん。れ。い。
極く生修の。金銀財宝ハ皆あけさぬ。
おじやあぐり。縁もはたまたぬ。お。て。ま。す。
りご。た。う。ま。て。ハ。佛。の。肉。骨。速。あ。は。れ。ん。ぢ。が
し。ん。肝。後。出。あ。ハ。あ。ま。か。り。尻。へ。ま。ま。ん。せ
こ。も。た。う。ま。よ。む。く。ふ。こ。く。と。ま。り。に。は。ま。り。は
十。家。住。土。中。唯。一。ま。法。と。説。ま。ハ。ま。ん。ぢ。

なごし。がごらんがごらんのははあ。人ハ。腎肉爛
場。中。禪の。痛。ハ。わら。も。つら。佛。心。を。悟。
謂。あ。ん。や。外。さ。ま。お。し。ま。化。す。る。理。あ。
此。ハ。金。剛。心。を。出。し。汝。が。未。生。の。因。が。
と。ま。の。ハ。か。ら。れ。祈。が。う。ず。な。は。な。ん。ん。の
善。の。識。を。し。ま。ご。ま。う。ち。ん。社。中。と。ま。な。ん。ん。
杜。撰。が。教。と。ん。も。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
教。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

明德先生杜撰と教示

杜撰ハ。お。も。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
教。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
神。ト。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

けり。よふやうとわたり。ごふいそそうをわて
 せうはされ。ト者業は体秘る首しそ。五郎を
 おし。四徳を唱へる。愛五んもトとえ生じて
 けり。よふて富家の町人よ文盲愚昧の者
 多し。よふとて貧者よ才智ある程希し。
 けり。トの父もおおしく思ひし。子とせしめ
 道とせしめ。剣へ秘し神と秘し。まじけ
 子ゆへん。我の相ふし。けり。ハ五律乃道も

あり。因果の及ぶもとれまふ。老若も老ど
 手。幾ふやろ。生涯魔境は任せん。けり。けり。
 ども父母の善業あり。いし。天をまつ
 ざる。し。ろ。けり。けり。けり。けり。けり。けり。
 よふ。よふ。天地の業をひそ。トゆ。けり。二柱乃
 神の後告あり。是よりふ。あ。けり。けり。けり。
 先生して大儒あり。けり。けり。けり。けり。けり。
 けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。

いまだうごぶとらちとて一束と机上
よきげ。やうよまらせ。かたとらちよいた
んまを。先生ハ繩床まきし。扱百人のつ
たごのおやぐでいまふとあひ。目ごりのちや
りも。こらちもいふねん。こまかしくやと
ちやうもんして。わふのそり。吾先生ハ隠
ふとけしと。らびの見識とかけりまらさる。

先生云。よはハ亦くも大聖文宣王のそりつ死
後とかけり。経書とてけりて教まらも。汝が
ぶく文字計まぶつてハ。韋編三絶。漢滴
三折も。道と得とかけり。文選曰。人生
渡一生去若朝露晞と。汝がよらひをぞふ
あつらもとらち。おの余命をまらとらつて
何事とらたんと形をまら。未だもわらむ
と。独衆と兼女ハ三途の道あつてをぞして



江戸

十一

考て功不從ふと云ふ廉と教性を知らぬのを聖人
 志やとらふ。汝いつ聖人ふかうたるや。海岸ふおして
 言句を尋らうと云ふも。つゝまかす所とまらうと
 希とまらう。福とらんごうかきまへが志とらう。又
 平生言とまけけ。亦来去東西とまらうとらうと。
 方隅はなまらおなうとらう。思ふもおそしむ。方あは
 ばもあ。はあへば忠孝の道もあ。若汝が悖ふ
 幸あらば。道も法もあ。いと。さうなうとらうとらう。

禽獸も中へもいふものもあ。汝がぶらう外道あ
 ら。ぬま立文字は法門と。禅天徳と。海邊と。
 言句を難し一あへ。一か費之とのたまふは
 口いらとをきんとも。大道と。法華と。一
 人へ傳へ天四村と。そがさうけいぬ。学あは
 かり。ま所天地無邊と。むはがも。又母
 の陰陽の二神と。そ陰陽合と。はが一と極と
 生ずるとおはしむ。心と動と。おはうと。

うつゝあまそんぢやうとるゆへかの老俗のんをわ
んごしと。刻癖をぬぐひ。是れ心音に属するがな
性體をまもるゝ移わす。海が六根は
捨てんよ。心いつまはあまわぬ。聖知安ん乃
聖徳いしりもして。根性未分の性太郎
立帰て道とまぢ。是れ則滅徳を善か
性も増ももめざる天のそとと理づる
たまふも。無然そく早入おもりもと口は

開てとらして。心の境是徳。天約くたう鼻の
先智も入を信天は志。博覧も傍も心は
放蕩をまもる。生涯の戒勅も信とん
母の志は。大徳とん。父の恩も。びた神恩也
五十年の信も。無。天の八才も。あつ
飛らつて。外も。あつ。い。むれ。根清淨
善上も。天也。同根の性太郎。せむり。

性太郎一そく四畢



寛政十二年

冬

大坂

堀屋長兵衛

京寺町三條下

著屋儀兵衛

京東洞院錦小路上

田村 太兵衛

書肆

